

やまばと通信

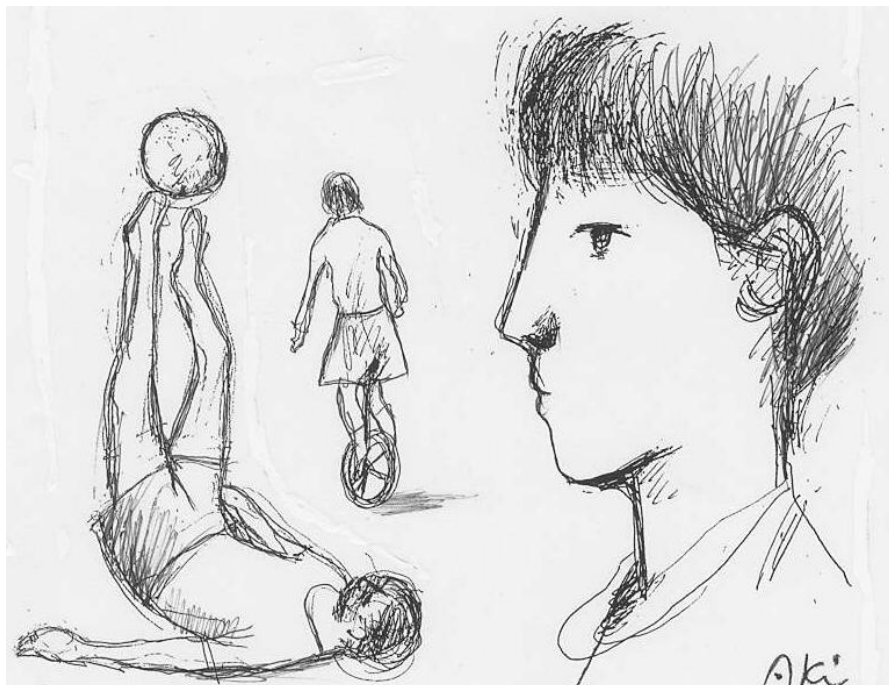
多摩市立図書館 情報誌 183号

春！新しいこと
探しませんか

主な記事

1P 「ご存知ですか？国民読書年と
サン・ジョルディの日」
2P 「おはなし会のお知らせ」
3P 「気持ちが前向きになる本」

4P 「ボランティアさんに
インタビュー！」
「シリーズ予約のご案内」
「ブックカバーのご寄贈
ありがとうございました」



永山在住の林田あきらさんからイラストをいただきました！
表紙イラスト大募集です。窓口に直接お持ちください。

2010年は、国民読書年。 よむことをひろげよう！

多摩市立図書館



今年は「国民読書年」です。多摩市立図書館でも、「よむことをひろげよう！」を合言葉に、各種催しなどを通じて「読書」の喜びをひろげてゆきたいと思います。

ところで皆さんは、「サン・ジョルディの日」をご存じでしょうか？ 4月23日は、スペイン・カタルーニャ地方などの守護聖人 サン・ジョルディ（＝聖ジョージ、聖ゲオルギウス）が殉教した日で、大切な人に 本や花（バラ）を贈り、気持ちを伝えあう日として親しまれてきました。日本ではあまりなじみのない記念日ですが、1995年のユネスコ総会で この4月23日を「世界 本の日（World Book and Copyright Day）」とする宣言文が採択され、日本でも2001年の「子どもの読書活動の推進に関する法律」により「子ども読書の日」と定められました。

バレンタインデーでのチョコレート業界と違い、書店や花屋ではあまり普及に力を入れていないようですが、「とっておきの一冊」に花を添えて、大切な方へのプレゼントにされてはいかがでしょうか？

多摩市立図書館

〒206-0033 多摩市落合2-29

（電話）042-373-7955

（FAX）042-375-9459

図書館ホームページアドレス <http://www.library.tama.tokyo.jp/>

携帯電話アドレス

<http://www.library.tama.tokyo.jp/i/>

2010年 4月 発行



おはなし会のお知らせ

多摩市の図書館では、あかちゃんから幼児・小学校低学年を対象に絵本のよみきかせや本の紹介、テーマにそった簡単な工作などを行なっています。また今年度からは 本館のほか、聖ヶ丘図書館と永山図書館でも【あかちゃん向けおはなし会】を実施いたしますので、是非お越しください！

子どもだけでも、親子での参加もOKです。事前の申し込みや参加費用はいりませんので、お気軽に各図書館に直接おいでください。

☆・・・あかちゃん向けおはなし会 ★・・・幼児～小学校低学年向けおはなし会

多摩市立図書館 本館

- ☆第1水曜日 午前11時～
あかちゃんとおかあさんのおはなし会
(0歳児対象) 図書館・ボランティア共催
- ★第2水曜日 午後3時～
図書館主催
- ☆第3水曜日 午前11時～
あかちゃんとおかあさんのおはなし会
(1歳児以上対象) 図書館・ボランティア共催
- ★第3水曜日 午後3時～
ボランティアさんと図書館によるおはなし会
- ★第4水曜日 午後3時～
「紙芝居サカサカおもちゃばこ」によるおはなし会
- ☆☆第4金曜日 午前11時～
「コアラ文庫」による乳幼児のためのおはなし会

東寺方図書館(総合体育館そば)

- ★第2水曜日 午後3時～ 図書館主催
- ★第3水曜日 午後3時～
「パルティサールきらきら」によるおはなし会

聖ヶ丘図書館(ピオニイ保育園そば)

- ★第3水曜日 午後3時～
図書館・ボランティア共催
- ★第4水曜日 午前10時過ぎ～(※5月から)
ピオニイ保育園三歳児向けおはなし会 図書館主催
※雨天中止。一般の方も参加いただけます。

間戸図書館(ザ・スクエア2階)

- ★第1・2・5水曜日 午後3時～
図書館主催
- ★第3水曜日 午後3時～
「にんじん」によるおはなし会
- ★第4水曜日 午後3時～
「多摩おはなしの会」によるおはなし(語り)の会



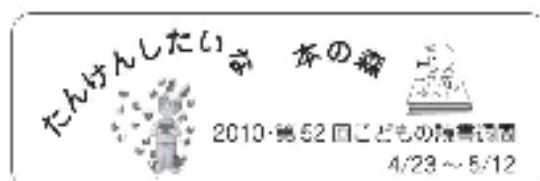
聖ヶ丘図書館(ひじり館内)

- ★第1・2・4水曜日 午後3時～
「つくしんぼ文庫」によるおはなし会
※第5水曜日は図書館・つくしんぼ文庫共催
- ★第3水曜日 午後3時～
図書館主催
- ☆第3金曜日 午前10時30分～
あかちゃんとおかあさんのおはなし会
図書館・ボランティア共催

永山図書館(ベルフ永山3階)

- ☆第2月曜日 午前11時～
あかちゃんとおかあさん
図書館・ボランティア共催
- ★第2土曜日 午後3時～
「かみしばいかしのき」によるおはなし会
- ★第3水曜日 午後3時～
図書館主催
- ★第4金曜日 午後4時～
「なかよし文庫」によるおはなし会

※日程は 事情により変更する場合があります。
各館にお問い合わせの上、ご参加ください。



「こどもの読書週間」は、こどもたちにもっと本を！との願いから1959年に始まりました。もともとは「こどもの日」を中心とした2週間でしたが、2000年の「子ども読書年」より期間を延長し、4月23日(「世界本の日」「子ども読書の日」)から5月12日までとなりました。

Positive になれます！

◆『煩惱リセット稽古帖』◆

小池龍之介著 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2009



「やらなくてはならない仕事がある」「自分は正しく評価されていない」「他の人は何でもうまくいってうらやましい」「欲しい物が手に入らない」など、毎日の生活の中で私達は様々な嫌な事にさらされています。その対象は人によって異なるでしょうが、心に浮かぶ感情は憂うつ、嫌悪、嫉妬などネガティブなものであることは誰しも同じではないでしょうか。ともすれば悪い方、悪い方へ向かいがちなのこの感情を「欲・怒・迷」という煩惱で表し、これらをいかにコントロールするかを仏教の観念で示したのがこの本です。

若いお坊さんが書いています。当然、仏教用語がたくさん出てきますが、1項目が短く独立しているので、気になった項目だけでも気軽に読むことができます。そして楽しい4コマ漫画がついています。4月から新しい環境や立場、人間関係に身を置かれる方も多いと思います。慣れない緊張の中で、自分の中にわきあがる「負の感情」を受け流す方法を見つけてみてはいかがでしょうか。

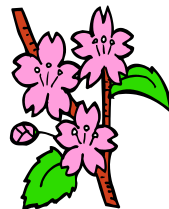
私が本書でひとつ学んだことー相手をののしりそうになったら、とりあえず3秒待ってから

言葉にすると、最悪の表現はさけられると本書は教えてくれます。(M.Y.さん)

春です！
あたたかい風に心が解放される季節到来！
今回は、前向きに気持ちが進んでいく、
そんな本を紹介します。

◆『知っているとうれしにほんの縁起もの』◆

広田千悦子著 徳間書店 2008



「和」の流行が続いています。

日本人として、覚えておきたい風習や言い習わしがたくさんあります。その中でも、縁起をかついでいるモノが実に多いことに気がつきます。

さすが、やおよるずの神の国！困ったときの神頼みはもちろん、物事に縁起をかつぐのはあたりまえ。知らずに使っているものでも、縁起のいいものがそこいらじゅうにあるんです。

こう考えると、日本人って、昔からものすごくポジティブ思考で生活してきたんですね。こじつけや語呂合わせ etc...。何でもかんでも「縁起がよいこと」にしてしまう。身の回りをよく見てみると、一つくらいあるでしょう？そんな身近な和物。「あ、これって縁起がいいんだ！」そんなことを思い出させてくれる本です。

何気なく使い続けている物が、実はこんな意味があったとか。誰もが思い浮かべるものから、これもか！と思うものまで、縁起の良いものがいっぱいあります。

ここからはじめて、もっともっといろいろな物で縁起をかつぐのも、面白いかもしれません。

(M.K.さん)

◆『たまには考古学に触れてみませんか・・・？』◆

◆『多摩のあゆみ 第137号 特集 多摩川流域の七世紀代古墳』◆

(財)たましん地域文化財団 2010

多摩信用金庫が発行する「多摩のあゆみ」は、多摩地区の歴史をはじめ多岐にわたる特集を中心とした季刊誌です。毎号一万六千部印刷され、多摩信用金庫 本・支店の窓口で無料配布もしており、企業の地域還元の好例といえます。

今年は、奈良に都が移って節目の「平城遷都 1300 年」にあたります。当時の多摩地区は武蔵国に属し、現在の県庁にあたる国府は府中の大国魂神社周辺にありました。国府をつくるためには地元豪族たちの協力が必要で、これらの人々や大和朝廷から派遣された官人の葬られた古墳が多摩川と、その支流の河川沿いに点々と残っています。多摩市では百草にある稲荷塚古墳(東京都指定史跡)が有名です。

本誌では、国府成立前の七世紀代の多摩地区の古墳について七篇の原稿が載っており、稲荷塚古墳も詳細に紹介されています。考古学の専門用語など読みづらい部分もありますが、古代の多摩地区の歴史を探るうえで中味の濃い特集となっています。(N.K.さん)



市民ボランティアさんにインタビュー！ Part 4

今回は、「多摩市子どもの読書活動推進計画」における市民連絡会議の座長であり、つくしんぼ文庫のメンバーとして図書館でのおはなし会にも関わってくださっている辻山さんにお話を伺いました。

【この活動に関わったきっかけを教えてください】

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」ができました。「読書活動の推進」と聞くと、堅苦しく、少し押し付けている感じもありますが、私は長年地域での文庫活動※を続けていましたので、法律ができたから新たに何かを始めたというわけではなく、普段の活動の延長という気持ちでいました。

多摩市の推進計画に関わったのは、策定前に図書館の職員が市民の意見を聞くために、文庫などをまわったのが始まりです。私たちのつくしんぼ文庫でも、こういう意見を出すべきかをじっくりと話し合いました。その後、この市民連絡会議が「市民グループの情報交換の場」ともなる事が決まり、私個人ではなく、つくしんぼ文庫として関わることになりました。

【3月に開催された子ども読書まつり《ほんととフェスタ》は、推進計画の施策の一つとして行われています】

今回の《ほんととフェスタ》は3回目の開催でしたが、毎回手探りをしている状態です。参加しているボランティアさんそれぞれに色々な想いがあるので、皆と一緒に考えながら、悩み悩みつくり上げています。ですが、何よりも「子ども」が主役のお祭りですから、来てくれる子供達みんなに、本の面白さと出あってほしいと願っています。

【推進計画に関わる中で、何か印象に残っていることは

ありますか？】

十代の子供達への働きかけというのはとても難しく、文庫活動をする中でも悩むところですが、今回の《ほんととフェスタ》で、高校生が出演する側として一緒に参加してくれたのがとても嬉しかったです。

【今後の活動について】

限られた会議の中ですが、「子供達が読書の楽しみとどう出合うか」という話をしてゆければと思います。

また「何故本を勧めるのか」「出あって欲しいのはどういう本なのか」という根本的な事も、みんなで考えあい、色々な想いを認め合いながら、共通認識にできればと思います。

―辻山さんご自身のお話を伺いました―

私は子どもを持って初めて子どもの本の面白さを知りました。子どもが産まれた時に、この子に何をしておあげられるかを考えたのですが、子守唄は唄えないし、どう声をかけていいのかも分からない。でも、字を読むことならできると絵本を読み始めたのが始まりです。赤ちゃんなのに絵本を読むとしっかり聞いている。その反応や感性に驚きながら、一緒に楽しんでできました。自分の子どもを見る限り、残念ながら本を読んでも立派な大人になるとは限りません（笑）。ですが、本を読んであげる事自体が楽しく、共有した時間は宝物になりました。子どもが中学生の時「ムシヤクシヤしてるから面白い話を読んで！」と言われたこともあります。子供達が大きくなった今では、面白い本を取り合い、奪い合いながら読んでいます。

※文庫活動：地域の子供達のために子どもの本を収集し、おはなし会などを通じて本と読書の楽しさを伝える活動。多摩市でも、子どもと子どもの本が大好きな方々が各地域で活躍なさっています。



「寄贈ありがとうございました」市民の方より、手作りブックカバーのご寄贈をいただきました。関戸図書館で、皆さんに自由にお持ちいただいています。

シリーズ予約をご利用ください！

シリーズ物(上・中・下巻など)を順番通りにお読みになりたい時は、シリーズ予約をご利用下さい。既に予約いただいているシリーズもさかのぼってシリーズ予約に変更することが出来ます。

ご希望の方は、各図書館の利用者用端末で操作するか※ 窓口にお申し込みください。

※パスワードをお持ちでない方は窓口にお申し出ください